

インド洋大津波による津波被害の状況を可視化し、世界に伝える多元的デジタルアーカイブズ

「アチェ津波アーカイブ」公開

首都大学東京大学院 渡邊英徳准教授らの研究グループ

首都大学東京システムデザイン研究科インダストリアルアート学域の渡邊英徳研究室は、京都大学地域研究統合情報センターの山本博之准教授・西芳実准教授と共同で制作した「アチェ津波アーカイブ」を、このたび発表しました。

「アチェ津波アーカイブ」は、2004年12月26日に発生した「インド洋大津波」による被害状況を可視化し、世界につたえる多元的デジタルアーカイブズです。発災から10年目となる日に、薄れゆく過去の災害の記憶を、未来につなぐためのプロジェクトとして発表に至りました。

このアーカイブは、2013年度グッドデザイン賞にて「復興支援賞」を受賞した「東日本大震災アーカイブ」と対をなすものです。デジタルアーカイブズにより、被災後の写真、被災者証言、復興支援国の分布などのデータを一元化し、デジタル地球儀上で俯瞰することができます。さらに、現地の風景に資料を重ねてみることのできるiPhone / iPad用アプリも、近日中に公開予定です。

「アチェ津波アーカイブ」の制作にあたっては、インドネシアのシアクアラ大学津波防災研究センターの協力を得ています。

■ アチェ津波アーカイブ URL <http://aceh.mapping.jp/>

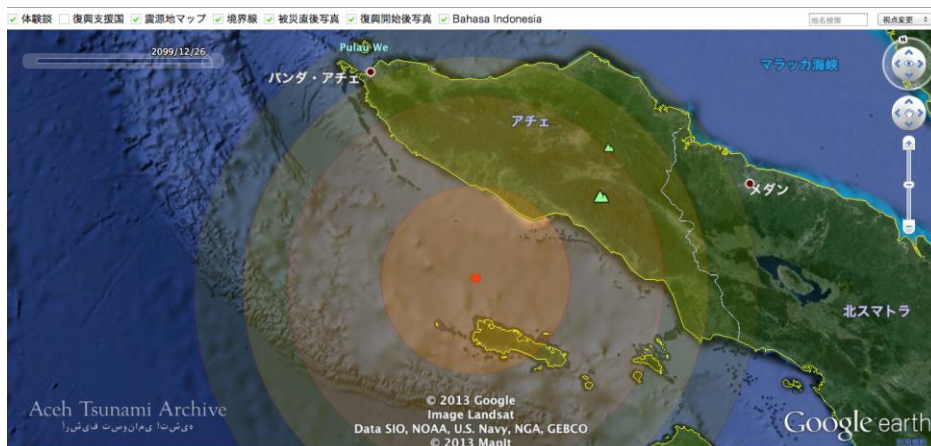


被災者の証言を顔アイコンとバルーンで表現

【お問合せ先】

首都大学東京 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域
渡邊英徳研究室

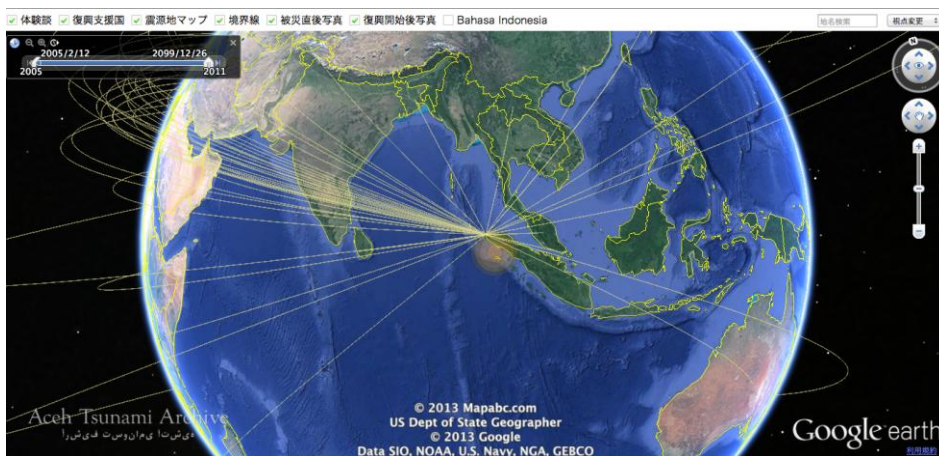
TEL:090-9835-2695 MAIL:hwtnv@sd.tmu.ac.jp



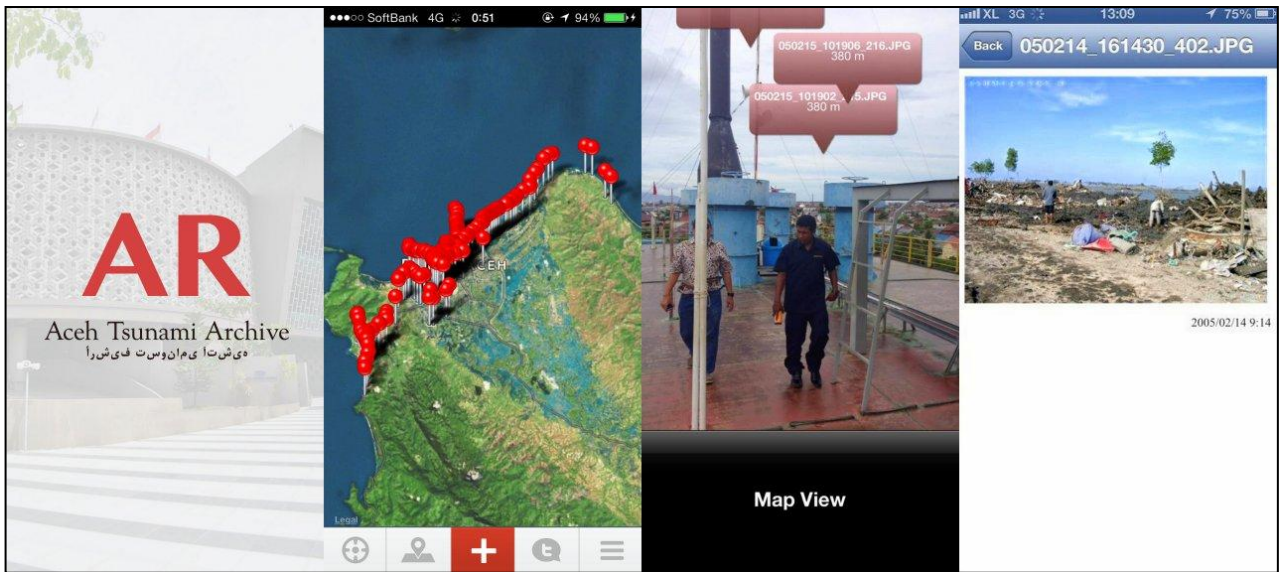
震源からの距離を同心円で表示



被災直後の写真を衛星画像にマッピング



復興支援国からアチエに延びるライン



iPhone アプリで資料を現地の風景に AR（拡張現実）表示



制作メンバーと現地の学生たちによる体験会

「アチエ津波アーカイブ」制作チーム

- 渡邊英徳、荒木佑介、菊本有紀、岸岡信伍、佐久間亮介（首都大学東京）
- 山本博之、西芳実（京都大学地域研究統合情報センター）
- Muhammad Dirhamsyah（シアクアラ大学大学院防災学研究科 研究科長）
- Nurjanah（シアクアラ大学津波防災研究センター）

首都大学東京「渡邊英徳研究室」について

渡邊英徳研究室＋ネットワークデザインスタジオでは、情報デザイン、ネットワークデザイン、Webアートの研究を行っています。これまでに発表した作品は、2013年度グッドデザイン賞、第40回「日本賞」、アルスエレクトロニカ2013、第13回、14回文化庁メディア芸術祭で受賞するなど、国内外で高い評価を受けています。

ウェブサイト：<http://labo.wtnv.jp/>

京都大学地域研究統合情報センター について

地域研究を基盤に、業種や分野を横断する共同研究を通じて現代世界の諸課題に対応する学術研究を推進する研究センターです。災害対応分野においては、2004年12月のインド洋大津波の被害と復興について継続的に調査を行っており、防災・人道支援と地域研究の共同による「災害対応の地域研究」プロジェクトを進めています。

ウェブサイト：<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/project/saigai>